

## 「暴力に屈することなく表現の自由守れ」 《私たちの「表現の不自由展・その後」》展再開を申し入れ

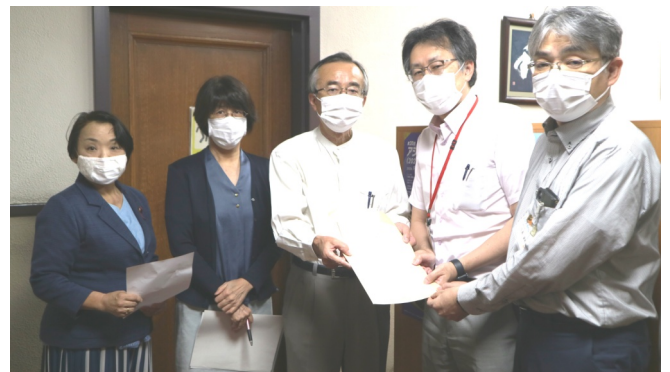
「私たちの『表現の不自由展・その後』」展が開催されている名古屋市施設での郵送物の破裂を受け、市は同施設を臨時休館し、同展が中止に追い込まれた問題で9日、日本共産党名古屋市議団は河村市長に同展を再開するよう申し入れました。

報道によれば、8日午前9時35分ごろ、「栄ギャラリー」（中区）宛て郵便物を、同施設を運営する団体の職員が開封したところ、複数回、爆竹が破裂するような音が発生。けが人はいなかったとのことですが、施設を所有する名古屋市は「施設や利用者などの安全を確保するため」として、今月11日までの同展の開催期間中、臨時休館することを決めました。警察は威力業務妨害の疑いで捜査中といっています。

同施設は国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」で一時中止された企画展「表現の不自由展・その後」展に出展された作品の展示会が、今月6～11日の日程で開かれていました。

申し入れで江上幹事長らは、「暴力的行為で表現の自由が奪われることはあってはならない。一時的な中断はともかく、展示最終日まで休館し続けるというのは納得できない。市として、主催者や市民が納得できるよう経緯を丁寧に説明するとともに、再開に向けて主催者と協議してほしい」と要請しました。

対応した市長室次長は「市長に伝え、しっかり対応したい」と述べました。



### 「私たちの表現の不自由展・その後」展示の再開を求める申し入れ

2021年7月9日

名古屋市長 河村たかし様

日本共産党名古屋市議員団  
団長 田口一登

日頃からの「表現の自由」を守る業務への奮闘に敬意を表します。

7月8日、封書が郵送され、爆竹らしきものが破裂したことを理由に、栄ギャラリーの臨時休館が7月11日まで行われることになり、「私たちの表現の不自由展・その後」の展示が事実上中止されました。暴力的行為で、表現の自由を侵す行為は断じて許されません。警察も含めて徹底して犯人の捜査を行うことを求めます。

さて、展示が中止されたことに対して、主催者側は、「なにが起きたか、なぜ中止になったのか、市からきちんと説明を受けていない」「（中止は）一方的だ。警備を尽くせば開催はできる」「休館しないといけないほど差し迫った危険といえるのか。簡単に暴力に屈して表現の自由が侵害されていけない」

などと主張し、市側の説明に納得していません。

表現の自由を守ることは基本的人権として大切なことであり、私たちもその自由を守るために全力を尽くすものです。

そこで、下記について申し入れます。

記

- 1 暴力的行為に屈することなく、表現の自由を守る毅然とした態度を示すこと。
- 2 展示を中止した理由について、主催者はもちろん、表現の自由に関心を持つ市民に対し、丁寧に説明すること。
- 3 警備などについて主催者側と協議の上、展示の再開を認めること。

以上